

◎ 評価対象分野・施策の方針

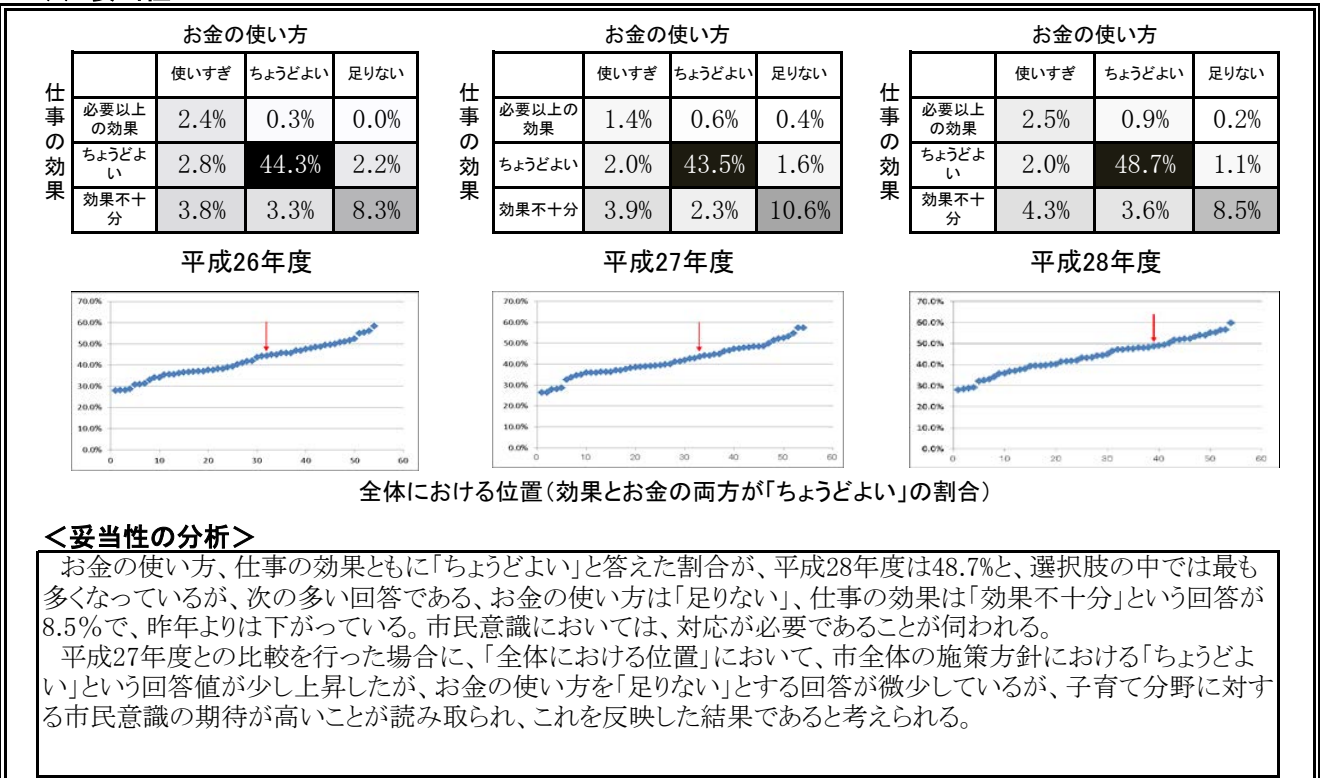
総合計画上の位置付け	分野	青少年の育成	施策の方針	青少年の育成・支援
------------	----	--------	-------	-----------

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	27.0%	平成27年度	28.6%	平成28年度	24.2%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性



(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成28年度	14.6%	50.1%	6.7%	28.6%	100.0%
平成27年度	17.2%	44.5%	5.2%	33.2%	100.0%
平成26年度	14.2%	48.3%	5.4%	32.2%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成28年度の目標

- ① 青少年の健全育成を図るため、青少年育成団体等の連携及び協力した体制づくりの構築を図る。(こども-27)
- ② 困難に直面している若者に対する地域の理解を広め、就労等への支援者を増やすためのセミナー等を開催するなど、「支援体制の充実」を図る。(こども-27)
- ③ 青少年会館の自己肯定感の持てる青少年の居場所となるよう、自立困難な若者に対しての取組みを図る。(こども-28)

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
整理番号	事業名	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	事業内容	予算規模
こども-27	育成事業	5,245	5,371	17,511	17,615	1.5	1.5	a	B
こども-28	青少年会館管理運営事業	34,162	33,761	51,334	50,902	2.1	2.1	b	B

(3) 主な実施内容

【主な実施内容】

- ①研修会、講演会を開催し青少年指導員としての活動内容の向上に努めた。(こども-27)
- ①キャンプ等、小学生を対象とした各事業を実施した。(こども-27)
- ①成人のつどいを実施した。(こども-27)
- ①各中学校区を中心に市内をパトロールした。(こども-27)
- ②「鎌倉市子ども・若者育成プラン」の推進及び平成28年に策定した子ども・若者育成プランの重点目標②の困難に直面している子ども・若者に対して「支援体制の充実」を図るため、「鎌倉市ひきこもりに関する連絡会」を設置し、庁内4課のそれぞれの関わり方、取り組み状況等の情報共有をした。(こども-27)
- ②庁内4課の連携先と平成28年11月16日に「ワークショップ的意見交換会をした。平成29年1月30日に「地域の中でどのような支援ができるか」をテーマに「鎌倉市ひきこもりに関するワークショップ」を実施した。また、「ひきこもり」について、広く市民の方々へ周知するために、「どうして不登校、ひきこもりになるのか」をテーマに平成29年3月19日に講演会を実施した。(こども-27)
- ③様々な年齢層の青少年を対象に、各種の講座を開催した。(こども-28)
- ③鎌倉青少年会館及び玉縄青少年会館の維持管理を行った。(こども-28)
- ③青少年会館が自己肯定感の持てる青少年の居場所となるよう、湘南・横浜若者サポートステーションと連携し、玉縄青少年会館に足を運んでもらえるような取り組みをした。

【実施できなかった事業とその理由等】

(4) 平成28年度の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

平成28年3月に改訂した「子ども・若者育成プラン」の3つの重点目標のうち、「支援体制の充実」を図るため、「鎌倉市ひきこもりに関する連絡会」を設置し、庁内4課のそれぞれの関わり方、取り組み状況等の情報共有をした。

また、青少年会館管理運営事業においては、地域との交流やふれあいを図り、広く地域の方々に周知を図るため、玉縄青少年会館職員が「玉縄祭」に参加し、青少年の居場所の一つとなるよう、青少年の利用者を増やす事業を展開した。

青少年の健全育成を目的として活動しているNPO法人「鎌倉てらこや」、「鎌倉市青少年協会」、「鎌倉市青少年指導員連絡協議会」の3団体が一同に会して鎌倉青少年会館フェスティバル参加するなど、青少年育成団体等の連携及び協力した体制づくりの構築が具現化した。

総体としては、「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、事業費等の経費面からも効果面からも概ね適切な取り組みを行い、成果が得られたと考えられる。

3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

平成29年度は、困難に直面している若者等について、各種の相談機関や地域の若者支援機関等と連携し、支援のネットワークを構築できるよう努めていく。

困難に直面している青少年も青少年会館が居場所の一つとなるよう、更なる青少年の利用者を増やす取組みを実施していく。

4 平成29年度の目標

- ①引続き、青少年の健全育成を図るため、青少年育成団体等の連携及び協力した体制づくりの構築を図る。
- ②困難に直面している若者に対する地域の理解を広めるための、セミナー等を開催するなど、「支援体制の充実」を図る。
- ③青少年会館が自己肯定感のもてる青少年の居場所となるよう、自立困難な若者に対しての取組みを図る。

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	こども-28	事業名	育成事業							
指標の 内容	青少年指導員欠員地区の担い手の確保					単位	人	指標の 傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由		年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31		
近年、60歳を過ぎても引き続き仕事に就いている人が多く、青少年指導員のようなボランティア活動をする人が減少傾向にあるため。	目標値	75	75	75	75	75	75	75		
	実績値	65	63	56	58					
	達成率	86.7%	84.0%	74.7%	77.3%					

整理番号	こども-29	事業名	青少年会館管理運営事業							
指標の内容	青少年会館の利用者数の増加					単位	人	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H28年度は、玉縄青少年会館3階集会室の床張替え工事につき、集会室と音楽室が使用できなかったため、利用者が減った。		
青少年の利用者(利用率)数を増やすため。	目標値	52,200	52,300	52,400	52,500	52,600	52,700			
	実績値	52,845	55,041	53,715						
	達成率	101.2%	105.2%	102.5%						

参考 前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

・平成28年度に改訂をした「鎌倉子ども・若者育成プラン」に示す3つの重点目標を具現化することが求められる。

・そもそも行政施策における青少年の育成とは何か？官民協働により、研修会や講習会等、様々な良い取組が行われていると思うが、具体的に何を行い青少年にどのような効果があったのか(期待できたのか)が確認できない。ごく普通の青少年に支援施策が必要か？等の疑問を踏まえ、青少年育成施策として行政が行うべきことは何かを明らかにすることが求められる。

・困難に直面している若者に向けて取組を図らなければならないが、ひきこもりなどの青少年は研修会や講習会などには参加しないと思うので、現状の取組(フェスティバルの開催など)が、対象となる若者に対して問題解決に至るものになっているのか、検討が求められる。

・自立できない若者、子どもの貧困に対する施策の充実が求められる。

・分野としてはもっと広い年齢層をターゲットとした取組を考えているのだろうが、結果、園児、児童のためのものになっていないか。居場所を求めたものが青年ではなく小学生では、目的に対して結果が十分なものになっていないのではないか。15歳以上だけを専門とした部署で取組を行った方が結果が出る可能性もある。

・研修会・講習会の参加者数やひきこもりなどの青少年に対する支援施策が明らかになっていない。

指摘への対応、コメント等

・重点目標の「青少年の居場所づくり」の中で、「湘南・横浜若者サポートステーション」に来ている若者に玉縄青少年会館が一つの居場所となるよう働きかけた。・支援体制の充実を図るために、庁内4課で「ひきこもりに関する連絡会」を設置した。

青少年の育成は、家庭、地域、学校の連携の中で取組むべき課題であり、行政の関わり方は、自助、共助、公助の役割分担の中で考えています。地域の中で、青少年が色々な体験をすることは、集中力や想像力を養うきっかけとなっている。これまでも地域の自治町内会からの推薦を受け、市長が委嘱した鎌倉市青少年青少年指導員や青少年協会の方々に青少年健全育成のための様々な事業を実施していただき、地域の子どもたちの一つの居場所になっている。

平成28年3月に改訂した「鎌倉市子ども・若者育成プラン」の中で、3つの重点目標の中の重点目標②「支援体制の充実」として、庁内4課(産業振興課・生活福祉課・教育センター・青少年課)で、「鎌倉市ひきこもりに関する連絡会」を設置し、市としての現在までの取組み事業について情報共有をした。また、庁内4課の連携先と平成28年11月16日に「ワークショップ的意見交換会をした。平成29年1月30日に「地域の中でどのような支援ができるか」をテーマに「鎌倉市ひきこもりに関するワークショップ」を実施した。また、「ひきこもり」について、広く市民の方々へ周知するために、「どうして不登校、ひきこもりになるのか」をテーマに平成29年3月19日に講演会を実施した。まず、広く市民の方々へも「ひきこもり」について、知ってもらい理解してもらうことが必要であると考えている。

・28年度に策定した「子ども・若者育成プラン」は、主に15歳以上の青少年を対象にした「青少年の居場所づくり」、「支援体制の充実」、「子ども・若者による社会参画の推進」を図っていく。現在、市が実施している事業の対象年齢を小学生や中学生だったものを青少年まで年齢層を広げるなど、他課にも協力をしてもらっている。

平成28年度は、日頃から青少年健全育成活動に従事している団体や鎌倉市民生児童委員等に「ひきこもり」についての意見交換会やワークショップ、市民対象に講演会を開催した。

・年度の目標、計画についても、これらの何をどうするために、どのような取組を行うのかが分からない。

提言

・青少年(乳幼児～30歳未満)全体の支援を総合的に議論すべきであり、結果によっては子育て支援との統合も射程に入れて検討すべきである。

・青少年の健全育成を図るとあるが、行政が考える健全とはどういうことか。多様な子どもの姿を受け止められるよう配慮してほしい。

・目標とすべきまちの姿は魅力的であるが、それに支障をきたしている青少年を行政として支援することは難しいため、支援を必要としている家庭と協力した事業を実施すべきである。

・将来の引きこもりを減少させるために、いじめ対策など初等教育に力を入れるべきである。

・学校以外で青少年の居場所づくりのためのプログラムを構築すべきである。学校では活躍出来ず自信を失っている子どもが地域、その他の場で自分を発揮することが多々ある。

・青少年会館が青少年の居場所の一つとなるよう、更なる青少年の利用者を増やす取組を実施すべきである。

・子育て支援事業と合併することも考えていくべきである。

・「青少年の居場所づくり」、困難に直面する子ども・若者を対象とした「支援体制の充実」、「子ども・若者による社会参画の推進」への対応がわかる指標を設定すべきである。

・立派なポリシーを策定しても実効性がなければ意味が無いため、プランに縛られず、本来の意味と実態に合わせた事業を行ってほしい。

28年度に改訂された「子ども・若者育成プラン」は、困難に直面している子ども・若者を対象に「支援体制の充実」の中のひきこもりや不登校等について取り組んでいく。

提言に関するコメント等(総論)

青少年育成は、家庭、地域、学校の連携の中で取り組むべき課題であり、行政の関わり方は、自助、共助、公助の役割分担の中で考えるべきである。平成28年3月策定の鎌倉市子ども・若者育成プランは、平成23年8月策定の鎌倉市子ども・若者育成プランを改訂したものであり、改訂前プランの理念や目標を踏襲し、青少年の居場所づくり、支援体制の充実、子ども・若者による社会参画の推進を三つの重点目標としている。

その中でも困難に直面している子ども・若者を対象に「支援体制の充実」の中のひきこもりや不登校等について、取り組んでいく。理念は、大きく4つに分かれています。

1歴史と文化のまち、鎌倉に住むわたしたちは、毎日の生活の中で、自然と人とふれあい、出会い・喜び・感動を体験し、思いやりと正義を学びます。夢・希望・誇りを持ち、安心して暮らすことのできる自立と共生の社会を実現します。

2子ども・若者は、親や教師・地域の大人に習い、また、仲間を大切にします。自分の課題や役割に取り組み、失敗を恐れず目標に挑戦します。鎌倉の歴史と自然に学び、これからの鎌倉の担い手となります。

3大人は、市民としての、親としての責任を自覚し、子ども・若者の手本となります。地域とのつながりを大切にして、鎌倉のまちづくりと子ども・若者の育成に努めます。

4行政は、家庭・学校・地域と連携して、子ども・若者を健全に育成する環境を整えます。この理念を5つの目標で分類し、市全体の事業を分けて推進している。



鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・目に見える形での変化はないのかもしれないが、なんとかしたいという姿勢。
- ・縦割りの行政ではなく、庁内4課がそれぞれの関わり方、取組状況などの情報共有をした。
- ・様々な年齢層の青少年を対象とした講座の開催、青少年指導員の資質の向上に努めた。
- ・「鎌倉市ひきこもりに関する連絡会」を設置した。
- ・「引きこもり」に関するワークショップなどを開催し市民への周知に努めた。
- ・研修会、講演会を開催し青少年指導員としての活動内容の向上に努めた。
- ・キャンプ等、小学生を対象とした各事業を実施した。
- ・「鎌倉市子ども・若者育成プラン」の推進及び次期プランの策定をした。

評価の内訳						⇒	委員会の評価
取組	↑	4	↓	0	→		↑
効果	○	2	△	0	—		—

《課題》

- ・青少年と一概に言った場合「問題を抱える」青少年と「抱えていない」ように見える青少年とに分けられ、行政は前者に力が注がれているが、問題の潜在的な部分は後者に多くあるとも考えられる。
- ・青少年会館が青少年の居場所の一つとなるよう、更なる青少年の利用者を増やす取組を実施するなどの課題がある。
- ・青少年会館での定期的な講座の実態がつかめない。青少年会館の利用実態は小学低学年生がメインであれば、それは本来の目的とは違う結果を生んでいる。
- ・青少年会館を拠点として、さまざまな世代の交流が活発に行われることが目標とすべきまちの姿となっており、そのような取組が求められる。
- ・引きこもり数を把握することは困難と承知しているが、引きこもりの実態把握をして見える化することで、対策が立てやすくなるため、出来る限り実態把握に努めて頂きたい。
- ・「鎌倉市ひきこもりに関する連絡会」の活動などを通して、「地域の中でどのような支援ができるか」、「どうして不登校、ひきこもりになるのか」を市民に理解してもらう必要がある。
- ・情報共有を受けて、今後どのような対策が検討されたのか考える必要がある。引きこもりの当事者にインタビューしたとのことだが、今後どう施策につなげていくかが重要である。
- ・青少年指導員の選出方法を再検討し青少年指導員の役割、活動内容等を検討し青少年指導員の魅力を発信する必要がある。
- ・意思決定をどこでしているのかわからない。評価委員からの意見をどこにフィードバックして、どう議論したのか。

《提言》

- ・指標「青少年会館利用者数」は同一人の重複利用等の実態を明らかにし、幅広い市民に活用されることを希望する。子育て施設との連動・統合等を検討すべきである。
- ・学校での拘束時間の長さ、塾、お稽古事と自由時間の少ない子ども達、事業を展開するにあたって、学校との連携が必要である。
- ・ひきこもり、ニート等の実態は覚悟を持って誰かが取り組まない限り絶対にわからない。それをやらないのであれば、せめて未来のひきこもり、ニートの種を減らす取組を積極的に行ってほしい。
- ・困難に直面している若者等に対する地域の理解を広めるべきである。
- ・指標としている「青少年指導員欠員地区の担い手の確保」も大切であるが、その指導員がどのような支援(活動)をした結果、青少年に育成にどのような効果があったのかを把握することかが大切である。
- ・平成28年度に改訂した「鎌倉子ども・若者育成プラン」に示す3つの重点目標を具現化するよう取り組んでいただきたい。